

勇気を持ちなさい

「主はあなたがたの心を強めてくださる。

詩篇31:24

聖書は、主の民が信仰、希望、確信、信頼に満ちた者となるよう勧めている。世界に目を向けると、そうあるべき特別な理由が見えてくる。世の中の大多数の人々は、恐れ、不安、不信、心配に満ちている。そのため、人生のチャンスを最大限に生かすことができない。彼らは、さまざまな方向に罪やトラブルの落とし穴があるのを見ているので、不信感を抱き、恐れる理由があるのだ。

しかし、真のクリスチャンは神と特別な関係にあり、神もクリスチャンと特別な関係にある。神と関係を持たなければ経験できなかったことである。それゆえ、彼らは神に期待し、信頼しなければならない。彼が言ったことに耳を傾け、自分たちの経験はすべて彼の監督下にあると考え、勇気を持つことである。第二コリント4:15-17

神の民は、世から一歩踏み出し、主イエス・キリストの基準、すなわち、義、真理、聖さ、罪への対抗の基準に加わった。彼らは強大な敵に取り囲まれる。サタンは、神のすべての計画に反対してきたように、彼らに反対しようとする。サタンは主を直接攻撃することはできないが、主の計画と主を信じる者たちを攻撃することはできる。イエスと使徒たちの時代に暴動、騒乱、迫害を扇動したのはサタンであり、それ以来、主の民を圧迫してきたのもサタンである。 2コリント2:11; 11:14; 2テサロニケ2:7-10; 1ペテロ5:8,9

サタンは、自分の個人的な手によってではなく、惑わされたしもべたちを通して、これらのことを行なった。(2テサロニケ2:11)。サタンは常に、義と義を愛するすべての人々に反対してきた。このため、クリスチャンは大きな勇気を持つ必要がある。もし敵対者に勇気を打ちのめされるのを許すなら、彼はすぐに彼らを戦いから完全に退けさせてしまうかもしれないからだ。勇気を失って退却する兵士は、戦いではほとんど役に立たない。勇気を失う代わりに、私たちは地上の利益を父に委ね、現世において父が私たちを導いてくださり、"御心に従って召された者"である者たち（ ）のために、すべてを益として

覆してくださると父に信頼することである。ローマ
8:28

敵対者のほかに、私たちには私たちに反対する世間一般の霊がいる。世はしばしば、私たちが特別な神の監督を受けていると考えるのは愚かなことだと考えるだろう。そのような霊は黙ってこう言うかもしれない、「神はすべての世界、何千もの天使、そして宇宙のすべてを造られた。神があなたに特別な関心を持っていると思いますか？もし神がいるとすれば、神はとても偉大で、私たちはとても小さい。こうして私たちの信仰は打ちのめされるかもしれない。私たちは勇気を持ち、主を信じる必要がある。パウロはこう表現している：「私たちは、この世の霊ではなく、神の霊を受けたのです」。1コリント
2:12

さらに、私たちには墮落した肉がある。私たち一人一人が、自分自身の内に、自分の肉体の内に、最も手ごわい敵を持っているのだ。(ローマ7:18,25)。聖書は、私たちが自らを主に委ね、主が私たちに聖霊を与えてくださったとき、私たちはそこで変容のプロセスを開始し、"キリストにあって"胚胎する新しい被造物となったことを表している。(ローマ12:1,2; 2コリント5:17)。この胎児のような新しい創造物、新しい心、意志、人格は、私たちが地上の

状態から天上の状態に移行する復活の瞬間、すなわち霊的誕生の瞬間まで、私たちの死すべき肉体の中で発達する。「それ（新しい創造物）は、腐敗の中に蒔かれ、腐敗の中によみがえる：それは不名誉のうちに蒔かれ、栄光のうちによみがえり、弱さのうちに蒔かれ、力のうちによみがえり、自然の体に蒔かれ、霊の体によみがえる。"第一コリント

15:42-44

とはいえ、私たちが肉体の中にいる間は、その墮落した傾向のすべてと戦わなければならない。ローマ**6:1,2,11,12**）。私たちは地上の利益と希望を、天上の利益と希望と交換したのだ。日々の経験によって、主は私たちを試されている。私たちは肉に打ち勝つために、常に警戒していなければならない。罪への傾向と戦うには、大きな勇気が必要だ。肉の弱さと虚弱さと戦い続け、肉に打ち勝つ一方で、主への犠牲と奉仕に従事することは、さらに勇気を必要とする。これらすべてには多くの勇気が必要であり、私たち自身では不十分なのだ。**2コリント3:5**、ピリピ**3:3**

私たちは主に信頼を置くように勧められ、「キリストが私たちを強くしてくださるので、すべてのことができる」と保証されている（ピリピ**4:13**）。（ピ

リピ4:13)。キリストの力だけが、私たちにとって十分な力なのだ。、最終的な勝利をもたらすためには、私たちのすべての勇気、すべての信仰と希望、つまり私たちが戦いに投入できるあらゆる有用な要素が必要となる。しかし主は、私たちが克服者となれるよう、十分な恵みを与えてくださる。(第2コリント12:9；ヘブル4:16)。これは、私たちの誰もが完璧な人生を送るという意味ではないし、常に良い勇気を十分に発揮できるという意味でもない。私たちは時々失敗するかもしれないが、私たちの愛する天の父は私たちを導いておられるのであり、私たちはその失敗から貴重な教訓を学ぶのである。

さまざまな勇気

ある者は、より強い信仰と希望を持ち、心を完全に主に置いて、勇気をもって前進した。これは、強い勇気、正しい勇気という意味での「良い勇気」である。私たちの「主への希望」は、良い勇気、正しい勇気、神の勇気によって裏打ちされ、強くされるのだと、私たちはこのテキストから連想するかもしれない。

プライドから生まれる勇気もある：「引き下がるな。誰にも先を越されてはならない」。戦いでは、兵士たちは互いに競い合い、何か特別に目立つことを

して、指導者や仲間の喝采を浴びたいという願望を持つかもしれない。自分の命を失ったり、他の人間の命を奪ったりする危険を冒す勇気を与えるためには、彼らを奮い立たせる何か-おそらく名声への欲望- が必要なのだ。これは、勇気を鼓舞する動機としてはふさわしくないものではあるが、彼らの戦いで勝利を得るのに役立つと思われる種類の勇気である。

しかし、主への信仰と信頼に基づく正しい原則からの勇気は、うぬぼれや自慢ではなく、気高く、神に喜ばれるものである。その源は、神が約束されたこと、すなわち、神が見ておられ、私たちが神の御国で御子とともに共同相続人となることを望んでおられることを悟ることにある。(ローマ8:17、黙示録3:21)。神は、私たちが忠実であることを証明するかどうか、徹底的に試しておられるのだ。この勇気は、常に正しい方法、つまり主の方法で物事を行うことでなければならない。

この励ましはあらゆる状況に適用される

この正しい勇気の勧めは、私たちがどのような状況に置かれているかにかかわらず、人生のあらゆる局面で私たちに影響を与える。それは、権力や影響力

のある人に適用されるだろう。そのような人は、正しいこと、つまり主の御心と理解されることを行う勇気を持つべきである。そのような勇気は、私たちにこう言うだろう、「主の御心が何であれ、自分の義務を果たしなさい。たとえあなたの動機がしばしば誤解されるとしても、主に期待しなさい」と。私たちは、現世で報われるにせよ、　、やがて来るその人生で報われるにせよ、正しいことのために立ち向かう良い勇気を持つべきである。イスラエルを指導し始めたヨシュアに対する主の言葉を思い起こそう：「強く、勇気を持ちなさい。すべての律法に注意深く従いなさい、.....右にも左にもそれではならない。"ヨシュア記1:7

勇気を持ちなさいという勧めは、クリスチャンであるビジネスパーソンにも当てはまる。世俗の友は言うかもしれない。宣伝なんかできないよ。本当のことを言えば、人々はあなたを顧みず、嘘八百を並べ立てるところへ行くだろう」。もしクリスチャンがこのような忠告に従うなら、より大きな商売をすることはできても、人生の主要な事柄、すなわち正しい人格の育成と実践は失敗に終わるだろう。

同じことが、この世の状況や立場に関係なく、主の奉獻されたすべての人々にも当てはまる。それぞれが正しい原則を唱え、キリスト者としての品性を言

葉と行いで表現することに、臆病になったり恐れたりしてはならない。(ヨハネ3:21、ヤコブ1:22,25)
。原則が危機に瀕している場合、私たちは自分の立場をとって、「私の考えはこうであり、こうである。私は自分の義務だと思ふことをすることで満足し、他人を強制したいとは思わない。このように、異なる考えを持つ人たちでさえ、その人が確信を持っており、それを正直かつ誠実に表現する勇気があることを知るだろう。ローマ12:17

信仰に比例する勇気

キリストに従うすべての人の人生には、試練や困難がある。正しい勇気は、神の子たち一人一人に発揮される機会がある。これこそ主が求めておられる勇気であり、克服者に見出されるべき勇気である。天の御国で居場所が与えられるのは、このような者たちだけなのだ。だから、本文の教訓はこうである：勇気を持ちなさい。これこそ、主への信仰を示す方法だからである。主を望み、主に忠誠を誓う者は、その忠誠心と信仰に比例して勇気を持つ。マタイ9:29

このような勇気は、どのような状況においても私たちの味方となる。私たちの主は、ある時、弟子たち

に向かってこう言われた。...どのように話せばいいのか、何を話せばいいのか、思い悩むな。"(マタイ10:18,19)(マタイ10:18,19)。ここでは、こう考えられているようだ："権力者の前に引き出されても、心配することはない"。主の民は、どのような状況が起ころうとも、神への信仰と信頼を持ち、人生のあらゆる経験において神の力に頼り、勇気をもって行動する。

神が言葉や知恵を与えてくださる方法は、状況によって異なるかもしれない。他の人からの示唆かもしれないし、他の誰かの経験を聞くかもしれないし、特に役立つ聖句が心に浮かぶかもしれない。私たちの信頼は完全に主にあり、恐れることはないということだ。ヘブル13:6

主は、上に引用した言葉を弟子たち、つまり無学な者たちに向けて語られた。彼らが"統治者や王たち"の前に引き出されれば、当然、多くの不安を抱くだろう。彼らは何を言うべきか。学識のある偉い人たちにどう答えればいいのかだろう？弟子たちは非常に謙遜で、自分の無知を自覚していた。しかし、主は彼らを導いてくださった。今日では、事実上すべての人がある程度の教育を受けている。それでも、主の保証は、弟子たちにそうであったように、今の私たちにも当てはまるだろう。

もし私たちが窮地に陥ったり、困難な状況に陥ったりしたなら、聖書がこう保証していることを思い出すべきである。(詩篇34:7)。このように考えることで、私たちは心を落ち着かせ、冷静になり、主と密接な関係にあることを知りながら、勇気をもって行動できるようになるはずだ。こうして私たちは、主に全幅の信頼を寄せることができる。さらに、私たちは、一つひとつの経験において、私たちに関する神の目的が何であるかを完全に理解できるほど賢くはないことに気づくだろう。それゆえ、私たちは、主がこの問題やあの問題において、どのように覆されるかを知らないのである。

"信仰は主を堅く信じることができる"

初期の弟子たちは、イエスがご自身について予言されたことを思い、考え込んでいた。ペテロは確信をもってイエスに言った。"あなたはキリスト、生ける神の子です！" (マタイ16:16)。(マタイ16:16)。彼らは思ったに違いない：神が彼に危害を加えることを許すはずがない。弟子たちは、キリストが語ったこれらのことは単なる言葉のあやに違いないと結論づけた。(ヨハネ6:53-56)。だから今、彼が「人の子は.....十字架につけられる」と言ったとき

、彼らはそれが理解できない彼の独特の言葉の一つだと思った。マタイ**26:2**

それゆえ、イエスが逮捕され、ユダヤのサンヒドリンの前に連れて行かれたとき、弟子たちはかなり動揺し、不思議に思い、驚いた。それから、彼らの師はピラトの前に連れて行かれた。弟子たちは、イエスはローマの総督の前ではきっとためらわないだろうと思った！それゆえ、弟子たちは、自分たちが予想していたこととはまったく逆の展開になったとき、再び驚き仰天したのである。というのも、贖いの代価である完全な人間の命は、"すべての人の身代金"として提供されなければならないからである。1テモテ**2:5,6**; 1コリント**15:22**; ローマ**5:18**

もし神の知恵によって、私たちの師に対してなされたように、私たちを打ちのめし、辱めることが最善であるならば、私たちは勇気を持たなければならない。なぜなら、私たちは神を信頼し、神が私たちの経験を支配してくださることを確信しているからである。私たちは、主があまりにも賢明な方であり、それがどのようなものであれ、許可には動機と理由があるはずだと知っている。私たちは、聖なる者は主の目に尊く、特別に大切にされていることを確信している。詩篇**17:8**

どのようなことが私たちにもたらされようとも、その理由を見分けることができようといえまいと、私たちはそれを主からのものとして受け入れなければならない。たとえ道が険しくても、期待とは正反対のように見えても、信仰と希望を持つことだ。「主を待ち望め。勇気を持てば、主はあなたがたの心を強めてくださる。詩篇27:14